



倒木が多くなってきた。小滝がいくつか出てくるが、いずれも何なくパス。ナメの傾斜がきつくなってきて、それが尾根近くまで続く。沢の水が無くなるすぐ手前で昼食。尾根にはすぐに上がった。 (記。)

入渓点(8:50)——クラツ沢出合(9:05)——クロノ沢出合(10:05)——地神沢出合(10:35)——尾根(11:50)

地神沢(下降)

1982年9月19日

Lp

尾根から4分程下ると沢筋となる。下ってゆくとガレ場となり、そのすぐ下よりナメとなる。本流とはその先で合わさり、すぐ3つの小滝が出てくる。ナメは一時途切れるがすぐ再開。トチの実が落ちてきている。実だけがはじき出され、岩のくぼみにたまっている。拾いはじめたら、5分程で8kgもとれた。おかげでザックはぐっと重くなる。

1.5mの小滝は何なく下る。ナメが続く。快適な下りだ。
2.5mの小滝も軽くパス。気持ちよくナメを下って、先ほど遊んでいった二俣につく。今日の沢登りはこれでおしまい。あとはサルナシやマタタビをとりつつ、ゆっくりと下る。

(記。)

下降点(11:50)——下降終了(12:45)

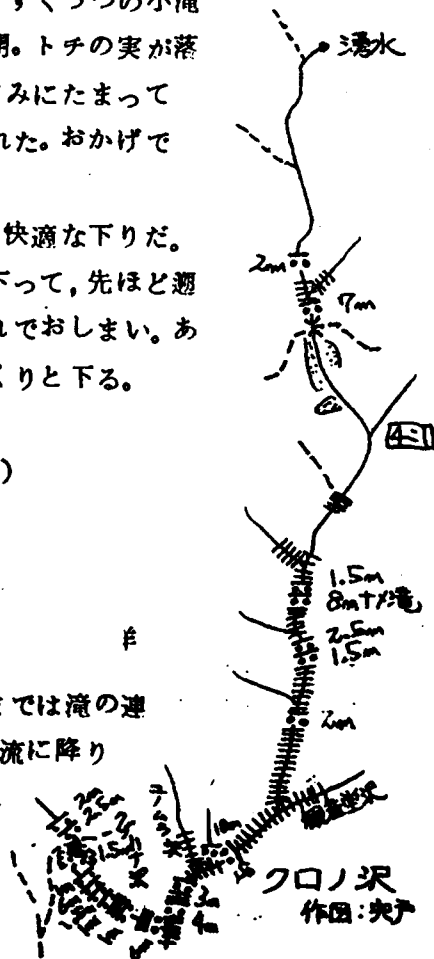
クロノ沢

1982年10月3日

Lp

クゾハナ沢を下降して本流に出る。そこまでは滝の連続であった。最後に6m滝の左岸を捲いて本流に降り立つ。滝とナメの連続する本流を少し遡るとクロノ沢出合。今日の目的はこの沢だ。

倒木を越え、快適にナメを溯る。やがて



1982年9月19日

観音堂沢

L

観音堂集落（現在は廃村になっている）の手前より沢に入る。ナメである。ワラジをつけて遡行開始。小さなナメとスラブが断続的に出てきて、クラツ沢出合に至る。沢は河原状になってしばらく続く。イワナの姿をみる。カイトキ沢が右岸から10mの滝となって合流し、それに続いて本かの小沢が合わさる。沢が右、左と曲がりナメが出てきた。このナメは長い。クロノ沢出合の先まで続いている。所々に滝をはさみ、おもしろい。いずれもフリクションのよくきくナメ滝で、なんなくパスできるが、おもしろがっているいろんなルートをとると、時にはドボンということに相なる。

ユノムラ沢を見送って進むとすぐ4mの滝となる。左岸を築に登ることができる。この上もナメが続く。すぐにクロノ沢出合。水量はどちらが多いともいえない。ほぼ同等。2mの小滝をこえる。その少し先にもう1つ2mの滝があり、これを越えた所で長かったナメも一段落である。

少し河原を歩いて県境になっている支沢との出合。県境というから多少け目立つ沢かと思ったが、ほんの小さな小沢にすぎなかった。

なおも本流を遡る。3mの滝が出てくる。左岸はゆるやかな傾斜で滝の上へ出れるが、右岸は垂直。こっちの方を登る。ナメがしばらく続いて地神沢出合。地神沢の方が水量も多いが、そっちは下降に使うことにして右の沢に入る。

